

白杵市教育委員会所蔵

「加島家資料」 目録

はじめに

ここに平成三十年度科学研究費補助金による、「臼杵市加島家資料の総合的研究」の研究成果報告として、回家資料の目録を刊行する。

後に解題編にも記すように、本研究への着手の契機は、平成二十一年度に臼杵市主導により開始された「臼杵藩政史料調査事業」にある。縁あって史料調査委員会の委員に加えていただき、膨大な量の稲葉家旧蔵典籍を、分類の第一門から通して一点ずつ拝見することができたことは、望外の幸運であった。同事業は平成二十八年三月の「調査事業報告書」の刊行によりひとまずの完結をみたが、当該の調査事業に携わるなかで、当時、同市の図書館に保管されていた膨大な資料群の中には、稲葉家資料のほかにも、諸家から寄贈された蔵書群の存在することが見えてきた。ただし「調査事業報告書」では、いくつかの制約から保管資料の一部を調査対象から外さざるを得ないこととなり、これをなんとかできないものかと考えたことから、本研究課題につながることもあった。

はじめは土御門家入門の礼をとった、風変わりな人物の蔵書という好奇心に発していたに過ぎないのだが、その著作を通して窺われる活動の幅の広さには、目を瞠るものがある。個人的な関心からは、彼の著作の中でも、地誌関連の仕事、同時代の風俗資料としての道中日記には、分析・考証を加えてみたと思うのだが、新型ウィルスの拡大の余波は本研究計画の遂行にも影響を及ぼし、資料調査の中断を余儀なくされ、研究の停滞を招いた。辛うじてここに目録を報告することで、その責めを

ふさぐものである。なお、『長崎道中日記』については、徳岡涼「紹介・臼杵市文化財管理センター蔵『長崎道中日記』(二〇〇〇)」（熊本県立大学文学部紀要）第二七巻通巻第八〇号、二〇二一年二月」として紹介が継続されている。

また、資料編として掲載した湯谷祐三「加島英国（吐洲）宛黄花庵升六書簡の翻刻と解題」には、別に「解題篇」が熊本県立大学日本語日本文学会『国文研究』第六七号（二〇二二年九月）がある。併せて参照されたい。

本研究の遂行にあたっては、研究協力者として山田尚子氏（成城大学）、徳岡涼氏（熊本県立大学非常勤講師）、湯谷祐三氏（愛知県立大学非常勤講師）の助力を仰いだ。また、臼杵市教育委員会文化・文化財課からは、岡村一幸氏（現、文化庁文化財調査官）、亀井カオリ氏、小中有子氏、竹内勢子氏による親身なるご協力とご教示を得た。特に記して感謝の意を表したい。

研究代表者 鈴木 元

目次

はじめに	1
解題編	3
加島家資料の認定をめぐる諸問題	4
鈴木 元	4
目録編	19
凡例	20
典籍	21
文書	37
諸資料	47
資料編	49
加島英国（吐洲）宛黄花庵升六書簡の翻刻と解題	50
湯谷 祐三	50